

夏ねぎ栽培では小菌核病と白絹病を効率的に防除しよう

【概要】

夏ねぎ栽培において、小菌核病を対象とした茎葉散布もしくはシメコナゾール粒剤の株元散布により、白絹病の被害も同時に軽減できます。

- 1 小菌核病を対象とした茎葉散布を5月下旬～6月下旬頃まで約7～10日間隔で4回程度することで、白絹病の被害も同時に軽減できます。シメコナゾール粒剤の株元散布も両病害に有効です（表1）。
- 2 小菌核病の伝染源となる子実体は、平均気温15℃で湿度が高い条件下で子のう盤（直径数mmのキノコ）が展開し、子のう胞子の飛散が始まります。そのため、防除開始時期は、県内の平均気温が15℃を超える5月下旬を目安とします。

【試験データ等】

表1 小菌核病、白絹病に適用のある薬剤（令和7年2月12日現在）。

種類名（商品名）	系統名	使用方法	希釈倍数・使用量	小菌核病	白絹病
チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤）	MBC殺菌剤	散布	1,000倍	○	-
ペンチオピラド水和剤（アフェットフロアブル）	SDHI殺菌剤	散布	2,000倍	○	◎
ピラジフルミド水和剤（パレード20フロアブル）	SDHI殺菌剤	散布	2,000倍	○	◎
ピコキシストロピン水和剤（メジャーフロアブル）	Qol殺菌剤	散布	2,000倍	○	◎
シメコナゾール粒剤（モンガリット粒剤）	DMI殺菌剤	株元散布	6kg/10a	○	○

◎：効果が高い ○：効果がある -：適用なし（令和7年度農作物病害虫雑草防除に関する除指導資料より）

※白絹病との同時防除を実施する場合は白絹病に効果のある薬剤を選択する。

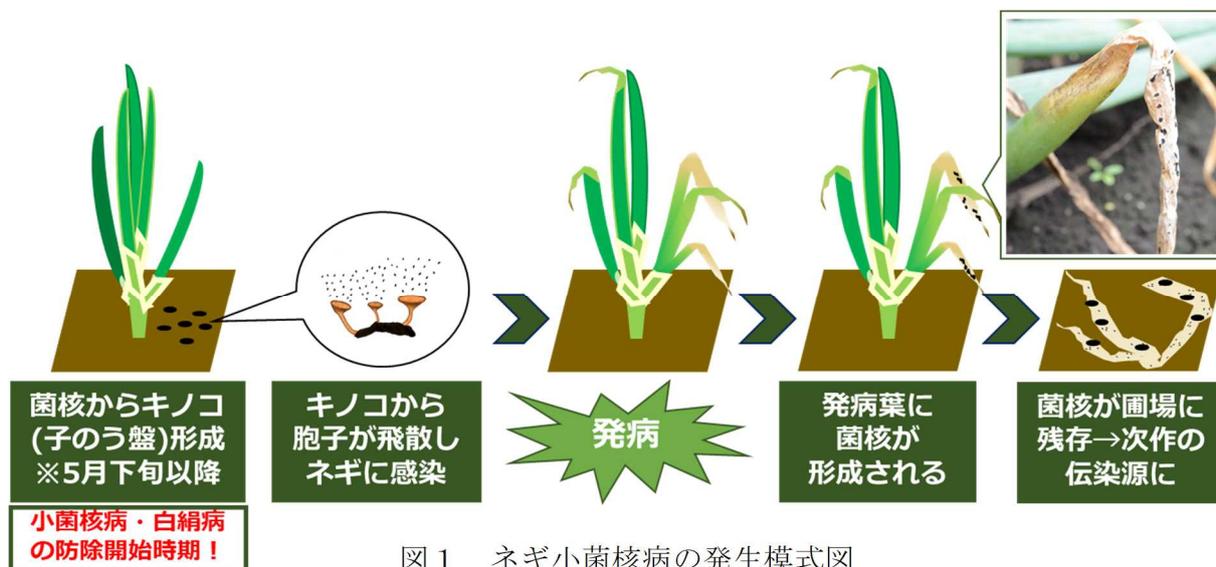


図1 ネギ小菌核病の発生模式図

【令和6年度成果】ねぎ栽培における小菌核病と白絹病の同時防除（R6-指-20）